



# りんご生産情報（6月号）

令和6年6月4日  
北地区営農係

現在、バヤむしり取り期間中！！むしれる内にむしってしまいましょう！！

## りんごの肥大状況

5月31日現在の果実肥大は、生態が10日早く経過し、その後も好天で経過しているため、各品種で平年を大きく上回る結果となりました。

単位：ミリ

地点	つがる	ジョナゴールド	王林	ふじ
中崎（平場）	26	24	25	23
住吉（中間）	26	26	26	24
弥生（山手）	24	25	21	23
管内平均	25	25	24	23
農協平均	26	25	26	22

## 1、摘果作業

今年の開花や結実量のバラつきは、昨年の花芽形成時期の高温や、過着果による充実不足が影響されています。

今年も夏場の高温が予想されるため、来年度の花芽を充実させ、養分の分散を防ぎ、果実品質を向上させるためにも、強い摘果を心掛けましょう。

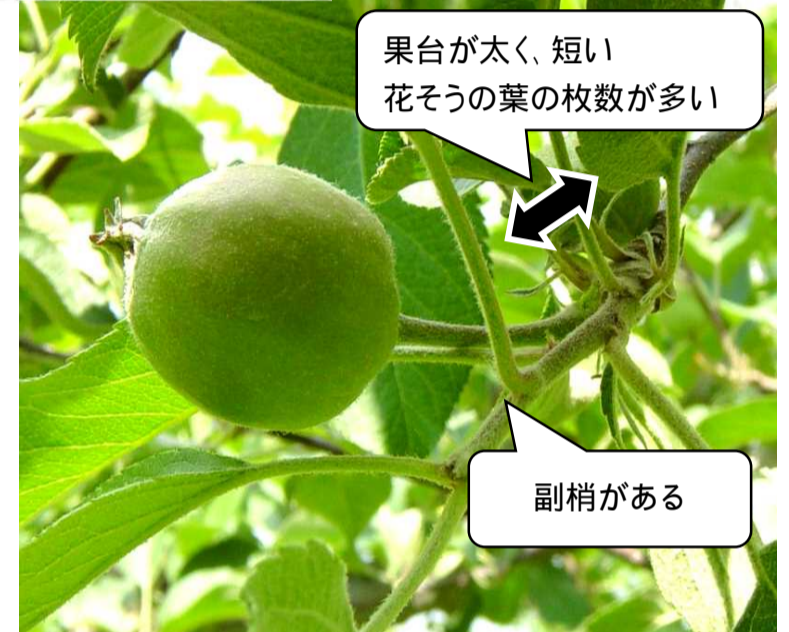
なお、サビ果など障害果も判別ができる時期ですので、積極的に収穫を見据えた着果量まで摘果しましょう。

### 仕上げ摘果のポイント

来年の花芽形成を促すため、7月上旬を目安に行う。

充実している花そうに成らせる。（右図参照）

【充実している果そう】



## 2、薬剤散布

今後、気温の上昇に伴いハダニの発生が懸念されます。量が多くなると、殺ダニ剤を散布しても対応しきれない場合がありますので、今後は予察を行い、発生しているダニに合わせた農薬を散布しましょう。

散布時期	対象病害虫	薬剤名及び混合順序	倍数	1000 当り薬量	防除上の注意
6回目 落花30日後 (6/7頃)	黒星病・褐斑病・炭そ病・輪紋病・斑点落葉病・すす斑・すす点病 モシクイガ・ハダニ類 アブラムシ・キンノハエガリガ	ラビライト水和剤 サイアノックス水和剤 ネオミクス	500倍 1,000倍 250倍	1kg×2袋 500g×2袋 4kg×1袋	<ul style="list-style-type: none"> <li>・降雨が予想される場合は、前倒して散布してください。</li> <li>・ハダニの発生予察を行い、発生が早い場合は<b>殺ダニ剤の早期散布を検討</b>しましょう。</li> <li>・アブラムシの発生が多い場合は、ウララDF コルト顆粒水和剤 トランスフォームFL いずれかの剤を加用して散布しましょう。</li> </ul>
7回目 落花40日後 (6/17頃)	黒星病・褐斑病・炭そ病・輪紋病・斑点落葉病・すす斑・すす点病 モシクイガ・ハダニ類 アブラムシ・キンノハエガリガ	ジマンダイセン水和剤 モスピラン顆粒水溶剤 ダニオーテフロアブル カルマツチ	600倍 4,000倍 2,000倍 770倍	1.67kg×1袋 250g×1袋 250ml×2本 1.3kg×1袋	
8回目 7月初め (7/2頃)	黒星病・褐斑病・炭そ病・斑点落葉病・すす斑・すす点病・輪紋病 モシクイガ・ハダニ類 キンノハエガリガ	オキシンドー水和剤 アーデントフロアブル カルマツチ	1,200倍 2,000倍 770倍	835g×1袋 250ml×2本 1.3kg×1袋	
9回目 7月半ば (7/16頃)	黒星病・褐斑病・炭そ病・腐らん病・斑点落葉病・すす斑・すす点病 モシクイガ・ハダニ類 コカモハキ・キンノハエガリガ	オキシンドー水和剤 オンリーワンフロアブル フェニックスフロアブル	1,200倍 2,000倍 4,000倍	835g×1袋 250ml×2袋 250ml×1本	

## 4.袋かけ作業

袋かけは落花50日頃が目安となるため、7月10日頃までに作業を進めましょう。袋をかける際には、もう一度着果量を確認し、成らせ過ぎにならないよう注意しましょう。袋かけは薬剤散布後5日以内に行い、間隔が空いた場合は、殺菌剤（チオノック等）で実洗いを行いましょう。また、着果量が不足している園地では、積極的に有袋栽培に取組み所得確保に努めましょう。

### 令和6年産りんご予約受付実施中！！

現在今年産のりんご予約申込みを受付しております。受付期間は7月19日（金）までとなりますので、1箱でも多い予約をお願いいたします。

